

支部四季の山・夏山に参加して

恵 秀彦

最初の印象、休暇村でのキャンプ体験

東北の山と温泉を楽しみましょう、こんな魅惑的な誘い文句に惹かれて会山行のお仲間に加えて頂いた。支部行事では幾度か経験したが、山旅を目的とした参加は今回が初めてだったので、メンバーに迷惑をかけてはと、多少の不安もあった。

初日は、乳頭温泉郷に位置する休暇村キャンプ場。ブナの疎林に囲まれたオートサイトにテントを3張。テーブルをタープで囲み、夕餉の下準備が整うと、まずは温泉旅の幕開けだ。まだ若い頃、冬の救助講習で訪れたことのある温泉施設である。露天風呂に浸かりながら、越しかたを思う。ひと風呂浴びた後はご準備頂いたすき焼き、ご持参頂いた塩麴の胡瓜など様々な食材をサカナに、これも差し入れの冷えたビールで喉を潤す。心憎いばかりの演出だ。ここで気がついた事。「ひとりテント」「食事は別」である昨今の若者と異なり、「団塊の世代」前後に位置する参加者は、互いに「同じ釜の飯」意識で鍋を囲む遠慮のない所作がしごく自然であり、いつの間にか不安な気持ちもどこかへと消えていった。

二日目の発見、秋田駒・乳頭山で感じたこと

小雨まじりの空模様にもげ事なく、八合目小屋から秋田駒ガ岳を目指す。灌木を越え、溶岩石を踏みしめてパーティに遅れまいとひたすら足元を追う。蝶が舞い、花咲き乱れるはずの広大な風景は、空しく横殴りの風と共に乳白色の霧の彼方へと消え去った。それにしても余裕綽々で花を愛でる皆さ



まの健脚ぶりに脱帽。講習では普段の生活態度が山に現れるなど、ほざいているが、一体、誰の事？日光の猿軍団宜しく「反省！」しきりである。とは言え、東北の山はあくまでも優しい。湯森山までは緩やかな尾根。池塘や湿原が広がる熊見平を経て笹森山へ。盛りはすぎたとはいえ、雪田草原に咲くニッコウキスゲ、コバイケイソウなど湿性の高山植物を楽しみながら千沼ガ原の大湿原を抜けて乳頭山へ。ようやく本日の長い山旅も終わりに近づいていた。晴天下に咲き乱れる高山植物群。二日目の山はそれと対極的ともいえる様相だったが、展望に恵まれなかった分だけ、また、色あせ始めた残り花だからこそ自生環境が際立ち、鮮明に脳裏に刻まれた気がする。

そして、三日目、阿仁マタギの郷、森吉山へ



昨日の疲れで萎えた心をなんとか整え、今回の山旅の主目的であろう和賀岳へ。途中、落石による道路閉鎖により花の百名山で知られる森吉山へと計画の変更を余儀なくされた。予想外のトラブルだ。残念がってはみせても内心、ほっとした複雑な気持ち。想定外の出来事は旅を豊かにしてくれる。意外性にこそ旅の本質が隠れている、ナンチャッテ…。それにしても今回の山旅には、様々な場面で山行委員の皆さまの気配りを感じる事が出来た。行程を考慮してのテント泊と田沢湖畔の宿の組み合わせ。さり気ないようでいて周到な準備の跡を垣間見る事が出来、このことが何よりも大きな収穫になった。ありがとうございました。